

様式 3 (第 5 条関係)

平成 1 7 年 1 1 月 2 8 日

由利本荘市長 柳 田 弘 様

由利本荘市本荘地域協議会長 細 谷 文 夫 印

意 見 書

平成 1 7 年 1 1 月 7 日付開催の本荘地域協議会において、下記事項について審議しましたので意見書を提出します。

記

- 1 . 由利本荘市総合発展計画 基本構想・基本計画(案)について

意 見 書

本 荘 地 域 協 議 会

事 項	1 . 由利本荘市総合発展計画 基本構想・基本計画(案) について
-----	-----------------------------------

意 見 内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に送られた資料に目を通してきたが、いま、実際に説明を聞いたことで受け止め方が大きく異なった。「総合発展計画」と「新市まちづくり計画」は同じ理念のものだと言われたが、この説明を聞く前はどっちを見ても同じようなものと感じていたが、今回説明を受けてある程度頭に入ったが、一度では理解できないと思うのでもう少し勉強させていただきたい。行政の皆さんが作ったものは堅い(わかりにくい)感じがする。 ・ 「新市まちづくり計画」(P 3 1)「 4 . 新市の地域別整備方針」の中で (1) 地域構造の形成、地域拠点別整備方針として、それぞれの地域の特性、現状及び課題が整理されている。新しく策定する「総合発展計画」の中にはその点が記されていないようだが、組み入れるべきと考える。 ・ 基本理念的なものは今日の説明でわかった気がするが、具体的にどういう方法でそれを進めていくのか漠然としている。具体性のあるところまで進めてもらい、話し合うという形で意見聴取すべきである。 ・ これから具体的に基本計画が示されて、どのように進行していくのか、どのように結果として表れてくるのか評価的な面も加えてもらえれば、市民も計画の進み具合がわかると思うので、基本構想とは違うがそういったことも、今後考えていただきたい。 ・ 実施計画については毎年ローリングしながら事業計画を推進していく、と言われたが、市民からすると進展がないというような声もある。行政ですので市長の 4 年の任期で計画が変わるものではないと思うが、毎年ローリングがあるために取り組みがいまいちで新鮮味がない気がする。 ・ 病院跡地計画については、長い年月をかけてもなかなか実現できず今に至っており、1年でも、1日でも早く実現していただきたいと思っている。 また、この計画が目に見える形で動き出していくと、施策方針の「豊かな心と文化を育むまちづくり」だけでなく、いろいろな方針に該当し、県立大学の活用のためのサテライトキャンパスなど複合的かつ、新市発展の中核になる事業だと思うので、文化会館等既存の施設との連携なども予定されているが、連携と考えるとまた計画が遅れるような気がするので、先行して整備をしていくという位置づけを考えていただきたい。 ・ 事業の実実施計画に関しては、毎年ローリング(見直し)があると伺った。今回、組合病院跡地の関係を何らかの方法で早期に着工するよう、見直しをしていただきたい。 ・ 基本計画の中に子育て支援に関する項目が抜けていると感じる。組合病院跡地の施設に児童館の設置などの施設も考えていただきたい。

- ・ 少子高齢化対策は重要課題であることから、福祉事業と併せ、育児相談、学童保育、老人ケア、ニート対策等を具体的に樹立すべきと思う。
- ・ 少子高齢化、福祉の問題を考えると、地域住民のニーズは多様化してきており、「公の施設」の活用増大が大きなポイントであると考えられる。
- ・ 基本構想を以て基本計画の変更は難しいとの考え方は理解できるが、必要不可欠の条件も、今後やむを得ない場合も想定されるので、骨格は骨格とした扱いにとどめたら良いのではないかと考える。
- ・ 「地域に開かれたまちづくり」とあるが、どう展開する予定か明確にすべきである。
- ・ 全ての項目、事項全てが本当に大切なことと考えるが、「(8)雇用の安定と若者の定住化促進」については、工業団地の有効活用、企業誘致、新規事業の開発は欠かせないと思う。これらに対する対処方針を明確に出すべきである。
- ・ 全体的には良くできているが、新鮮味がなく、これだという決め手がないように思う(項目や文章をもっと絞るべき)。
- ・ この表現では、由利本荘市の進む先が見えない。
- ・ P3(4)で、由利本荘市を「県南西部」としているが、市民、県民から見た位置づけはどうか確認してもらいたい。
- ・ 県立大学設置時点と数年経った現時点での由利本荘市としてのスタンスが、どう変わっているかに言及すべきである。
- ・ 基幹産業を農業としているが、具体的にJAの施策はそうになっていないと感じられる。高齢者が担う農業に未来はないと考えることから、兼業農家の育成について言及すべき。
- ・ 人口と定住問題について、旧本荘市の考えは「微増」であったが、今回は「大幅な減」と設定している。これにより、策定のスタンスが大きく違ってくると思う。基本理念を明確にして欲しい。
- ・ Uターンだけでなく、Aターンにも力を入れるべきである(地元にいる跡取りのいない高齢者の願いである)。
- ・ もっと多くの方が仕事に就ける環境が必要であり、「ものづくり」、「勉強の場」、「ボランティアを可能とする」、明るい未来、夢のある由利本荘市にしてもらいたい。
- ・ 地域のまちづくりの中で、合併した一市七町の市民交流を創意を凝らして長期的にやる計画を考えるべきである。
- ・ 市内は病院、老人福祉施設、コンビニ、スーパーが賑わっているが、休日は市内に人の動きがあまり見られない。その原因を追及し活性化対策を打つべきではないかと考える。

- ・ おざなりな教育でなく、子ども達や父母の意見も行政サイドで良く聞く体制づくりが必要である。
- ・ 生涯学習は大きな課題であるが、多くの人たちは理解しておらず、また「自分達には関係がない、時間がない、興味がない」等との考えから、そっぽを向いている感じがする。初歩的段階からの再取り組みをした方がよい。
- ・ 発展計画という文言のみの表現だけでなく、実践計画も真剣に考えるべき。
- ・ イメージを提示するため、このような表現・文言になるのであろうが、可能な限り数値目標を入れるべきと思う。
- ・ 市民が最も関心のある「事業」については、基本構想及び基本計画の決定を受けた後に作成すべきものとする。
- ・ 平成17年度は合併前の状態を軸にしてまず執行しながら、基本構想、基本計画は次年度をにらみ策定すべきであり、そうした経緯の中で、詳細な「新市まちづくり計画」を策定するという選択肢もあるのではないかと考える。
- ・ 総合発展計画の進捗、評価を市民に公開すべきである(PDCAサイクル、5W1Hのような手法により責任と権限を明確にすべき)。
- ・ 基本構想については、異議なし。
- ・ 組合病院跡地と現文化会館を含めた総合的な開発計画については、前倒しする方向でローリングをお願いしたい。
- ・ 組合病院跡地に、ぜひ新市の顔として、市民が気軽に利用できる「文化・交流の場」として、こども館、図書館、音楽ホール、コミュニティ放送局などが、まちの中にできることを大いに期待している。
- ・ まちづくりの目標は、「新市まちづくり計画」P25～29の7つの柱の後にある「地域の住民自治組織(コミュニティ)の強化」、「開かれた行政の推進」、「住民と行政の協働によるまちづくり」というサブタイトルのような具体的なものにしたい。
- ・ 子育て支援については、子どものことを第一に、親子関係を重要と考えた計画にして欲しいし、家で子育てをしている人への支援も考慮して欲しい。
- ・ 秋田県は人口が減少していると聞くが、老人福祉にばかり目を向けるのではなく、「子育て中の方々」にも支援を行って欲しい。たとえば、若い人の利用可能な公営住宅を造るなど対策が欲しい。
- ・ 管理栄養士を中心として栄養士を配置し、子どもから大人までがおいしく、食育を体験できる場所があればよいと考える(由利本荘市でなければ食べられないものがあると、いろいろなところから人が集まると思う)。
- ・ 3項目の基本理念、それを実現するための7項目にわたる目標、新市の骨格をつくりあげるために、4プロジェクトを立ち上げることを10年間の計画骨子とすることについては、基本的に支持したい。

- ・ 基本構想やまちづくり計画が市制施行 8 ヶ月を経ても変化がなく、合併協議会で作成した計画と全く同じでは、進捗がないと言っても良いのではないか。目標や情勢について、修正があっても良いのではないか。
- ・ 合併に向けた、住民意向調査が平成 15 年 4 月に実施されたが、どう網羅、反映されているのか明確にした方がよい。
- ・ 新市運営後の市民要望の変化についても考慮すべきである。
- ・ 各論ごとのまちづくりの考え方が総論的であり、わかりにくいことから、もっと現実的な感覚での対応を求めたい。
- ・ CI づくりについては、横文字である取り組みづらいつら感であったが、市民の地域の枠を超えた一体性であり、当面の急務である。
- ・ 田や土地の利用計画が説明されたが、農、商、工の分野で「～をします。」「～を進めます。」というスタンスが目立つが、スーパーの進出や県立大学の開学などは市民の活性化(地域にとっては異常な伸びを見ることもある)を呼んでいる。したがって、前述のスタンスは、今後、行き詰まるのではないかと考えられる。土地利用、商業、農業の現実的な展望を分かりやすく、説明(記述)すべきである。
- ・ 財政計画の中で、人件費の問題についてももっと突っ込んだ議論をすべきである。
- ・ 資料 1-1 中の「まちづくり計画の新規、廃止」については、1 / 10 ~ 30 までの対応となっているが、基本構想と整合性はあるにしても、これと切り離す形でじっくり協議した方がよいと考える。
- ・ 基本構想、基本計画については、その位置づけ等について、もう少し詳しく、分かりやすく説明してもらいたい。
- ・ 「活力とにぎわいのあるまちづくりについて」の中に、各地域全ての町内会あるいは部落会をコミュニティ自治組織として明確に位置づけ、市行政のネットワークとして「住民からの発想、提言」を汲み上げる手段を構築すべき。
- ・ 新市は、旧本荘藩、矢島藩、亀田藩が合併した全国でも珍しい形態だと思うが、それだけに古来からの人々の暮らしの中では、それぞれ独特の歴史、伝統、しきたり等はじめ、地域環境の相違が大変大きいと考える。従って、合併により不安を感じている住民も少なくないことから、8 つの地域の特色を活かし一体的に成長、発展していくことが重要だとその位置づけが必要であり、明確に表現すべきである(新市を構築する過程での住民理解の根幹に関わる重点視点である)。
- ・ 全体的に基本構想については良くまとめられているが、まちづくりの目標については各項目ごとにできるだけ抽象論でなく、また従来型でなく、特に地域に特徴的なもので具体的なサブテーマを設け、市民に分かりやすい平易な文章で作り上げるべきである。
- ・ 組合病院跡地の計画は本荘地域だけの問題ではなく、由利本荘市全体の問題として考えるべきである。

- ・ 「組合病院跡地と(現)文化会館を新市の顔となる総合文化施設として整備する。コミュニティセンター(多目的ホール、こども館、研修室、情報提供システム)」にある「こども館」については、現在由利本荘地域においては、常時子どもを自由に遊ばせることのできる空間が少なく、特に冬期間など屋外で遊ぶことができなくなる期間が問題となっている。近隣の市では遊戯室があるが、乳幼児と小学生などが同じ部屋であることから危険であり、このこども館においては、年齢別の遊技エリアの設置を希望する。
 また、仙台市子育てふれあいプラザ「のびすく仙台」のような複合施設があると、大きな子育て支援になると考える(別紙)。
- ・ 「活力とにぎわいのあるまちづくり」について
 -) 市の顔とも言うべき、羽後本荘駅周辺の整備に力を入れた方が良く、今のままではあまりにもお粗末すぎると考える。
 -) 少子高齢化が本市では顕著であり、街に目に付くのは高齢者ばかりでにぎわいが感じられない。理由の一つとして、働き盛りの20～40あるいは50代の層が、休日に憩いの場として使える公園やその他文化施設が少ないことが上げられる。
- ・ 「恵まれた自然と安らぎのある環境共生のまちづくり」について
 -) 豊かな自然に親しむための環境整備をお願いしたい。休日には街を歩く人が増えるような、人々が歩きたくなるような、緑や花を整備したまちづくりを希望する。また、川辺にいきやすい親水公園などがあれば、それにより遠出をすることもなくなり、自動車の排気ガスの低減にもつながる。
 -) リサイクルやゴミの分別がラフすぎることから、市としてはもっと考慮した施策を展開した方がよい。
- ・ 「豊かな心と文化を育むまちづくり」について

個人的な意見だが、市民の文化レベルが低すぎる。

 -) たとえば、単身者で本荘が地元でない者は地域住民とのふれあいの場をなかなか見つけられない。高齢者のサークルはあるようだが、若者向けのものは少なく、人間関係を広げることができていない。仕事が多忙であることもあるだろうが、東北人の特性なのか、閉鎖的な街、住民だと感じる。
 -) 仕事に疲れた心をいやすような場がなくては、豊かな心と文化を育むまちづくりは難しいと考える。
- ・ 「心ふれあう情報と交流のまちづくり」について
 -) C A T Vを早急に整備してもらいたい(T B Sがないことで、情報はかなり限られていると感じる)。
 -) 書籍を始め必要な情報が手に入らず不満である。
 雑誌や漫画等の娯楽雑誌は揃っているが、学術書やI T関連の本、最新刊が手に入りやすく不便だ。
 -) 「男女共同参画社会について」であるが、本荘レベルの規模では難しいと考える。無理をせず、働く男女の比率を加味した目標をまず設定することが必要である。そうでない場合、そのしわ寄せは少数の働く女性にきて、より一層多忙となる懸念がある(男性の側からだけでなく、女性の参画も踏まえ、計画を策定すべきである)。